「ピースアクション in オキナワ 第 43 回沖縄戦跡・基地めぐり」の様子

3 月 25 日～27 日、日本生協連・沖縄県連主催ピースアクション in オキナワに参加しました。その詳しい様子をレポートします。

【劇鑑賞 那覇青少年舞台プログラム】
「わたしは一本のさとうきび」のフレーズで語られる戦争の悲しみと平和への祈りが、歌や踊りを交えて力強く表現。沖縄から学童疎開する対馬丸が攻撃され、多くの子どもたちの命とともに海に沈んでしまった悲劇をテーマに、平和についての問いかけと、夢や希望を持って生きることの大切さを感じました。

【戦争経験を聞く：玉木利枝子さんによるお話】
玉木さんが 10 歳のときに経験された沖縄戦の証言をお聞きしました。対馬丸に乗らずに命が助かった一方、激化する地上戦に巻き込まれ、砲弾が飛び交うなか、さまよいながら生き抜いてこられたこと、「水が欲しい」と呻きながら最後を迎えた兄に水を飲ませてやれなかった後悔や、被弾した祖父の断末魔のような声と家族の足手まといにならないように自決された家族の最期について語られました。

【沖縄国際大学 前泊博盛教授による講演】
前泊先生からは「検証・戦後 81 年～国際情勢と日米関係」と題して、日米地位協定や米軍基地問題を含め、最新の国際情勢などについて講演がありました。憲法改正への動きに注視するとともに、日米地位協定について理解を深めるため、これからも学んでいく必要性があると思いました。

【辺野古・瀬嵩の浜】

美しい瀬嵩の浜の対岸にある辺野古沖では、新基地建設のための軟弱地盤の改良工事が行われています。辺野古・大浦湾一帯は「ホープスポット」として認定され、生物多様性に富む、日本国内でも貴重な海域ですが、埋め立てにより、この貴重な生態系が破壊されるリスクが危惧されています。工事は天候に大きく影響されることや軟弱地盤の不安定さなどから難工事になっている現状などのお話がありました。最後に、転覆事故で亡くなられた女子高生らお二人のご冥福を祈りました。

【嘉数高台公園】

米軍上陸後、日米両軍の主力が激しい攻防戦を繰り広げた最も激しい戦場のひとつで、展望台からは普天間基地を含む街一帯を見ることができます。また、日米両軍の銃弾・砲弾が降り注いだ跡が残る石塀や、陣地壕・トーチカ跡が残っており、沖縄戦と米軍基地の両方を学べる場所となっています。普天間基地は市街地の真ん中にあり、沖縄国際大学に落ちたヘリの事故や、昼夜関係なく生じる騒音問題、泡消化剤による PFAS が流出した汚染問題などのお話もありました。また、公園内にある朝鮮半島出身者を追悼する慰霊碑の青丘（せいきゅう）之塔や、京都の塔、嘉数の塔を訪問し、被害の歴史とともに加害の歴史についても知ることができました。

【糸数壕（アブチラガマ)】

糸数壕は全長約 270m におよぶ鍾乳洞でできた自然洞窟で、糸数住民の避難場所でしたが、日本軍の陣地・糧秣庫となり、戦場が南下するにつれ、南風原陸軍病院の分室となり、軍医、看護婦、ひめゆりの学徒隊が配属され、600 名以上の負傷者が搬送されてきました。また、病院の撤退後は重症患者や住民が置き去りにされました。

このガマを見学するには、ヘルメット、ライト、軍手が必需品で、暗い足元の悪い中をゆっくりと進みます。糸数壕がどのように使われていたのか、また糸数壕に解散命令が下った後のお話などをお聞きしました。この暗い足元の悪いなか、ひめゆりの学徒隊は重症患者の看護などを担っていました。米軍がガマ内に火炎放射の攻撃を行い、天井などが焼けて黒ずんでいる跡もありました。ガマ内で明かりを消すと暗闇で何も見えません。想像をはるかに超えたなかで日々生きていた現実を思うと、恐怖の感情と息苦しさに襲われました。戦時中の地獄のような環境は二度とあってはならないと強く願わざるを得ませんでした。

【平和の礎・沖縄県平和祈念資料館】

平和の礎は、国籍や軍人・民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなったすべての人々の名前が刻まれています。刻銘碑は平和の広場を中心に円弧状に広がり、約 24 万人の名が記されていますが、毎年追加刻銘の申請や刻銘者数の追加・修正は行われています。平和祈念資料館では、沖縄戦関係実物資料や写真パネルをはじめ、沖縄戦体験者の証言集など沖縄戦の実相が展示されています。沖縄戦がどれほど残酷な戦場だったのか、平和の尊さをしっかりと考える必要があると感じました。平和祈念公園内にある全学徒隊の碑や韓国人慰霊塔を訪れました。ひめゆり学徒隊以外の学校から戦場に動員された学徒や韓国から徴兵・徴用され犠牲になった方を追悼する碑です。

【魂魄の塔・米須海岸】

魂魄の塔が建つ糸満市米須一帯は沖縄戦最後の激戦地で、日本軍も住民も追い詰められて逃げ場を失い、犠牲者が多く出ました。魂魄の塔は、戦後、旧真和志村の住民が散乱していた遺骨を集めて自然洞窟を利用して作られた納骨所で、約 35,000 柱が祀られています。宗教や出身地、立場を問わず、沖縄戦で犠牲になった亡くなったすべての人々を追悼する碑で、周辺には、「ひろしまの塔」「大分の塔」など全国各地出身者の慰霊碑もあります。魂魄の塔にて献花し、平和を祈念しました。米須海岸ではサーフィンを楽しむ人たちの姿を見ることができましたが、ここは戦火に追われた人々が追い詰められ、近隣の崖から身を投げた場所でもあります。現在の美しい海岸からは想像できない悲しい場所のひとつです。

【ひめゆり平和祈念資料館・ひめゆりの塔】
ひめゆりの塔は、陸軍病院に動員され、看護活動にあたったこと、病院の解散命令により放り出され、過酷な状況下で亡くなったひめゆり学徒隊の慰霊塔です。組合員のお子さん（小学生）は自分で花を購入し、献花をしました。
また、資料館では、犠牲者の遺品をはじめ証言映像や当時の写真を見学し、ひめゆり学徒隊が体験した沖縄戦の実相について学びました。

【山城本部壕】
山城住民の避難場所でしたが、軍病院が移動してきて、住民は追い出されました。艦砲弾の落下などでひめゆり学徒などが死亡。その後、軍陸軍病院が解散し、学徒達は戦場をさまようことになった沖縄戦の実相について、真っ暗な中で当時を追体験し、戦場の悲惨さや平和の大切さを学びました。

【首里城と周辺の戦跡】

沖縄の王朝であった琉球王朝の城の首里城。2000 年に世界遺産に登録されましたが、現在は火事による消失から復元に向けて再建中で、今年秋には復元されるそうです。また、首里城公園内にあるトーチカや、留魂壕・ガマ遺構の入口を見学しました。

【対馬丸記念館】

子どもたちに平和と命の尊さを伝えるため、対馬丸の沈没から 60 年目の 2004 年に開館しました。学童を含む乗船者 1,484 名が犠牲となり、救助されたのは学童 59 名を含むわずか 177 名。生存者も箝口令を敷かれるなどの対馬丸事件の悲劇について学び、平和とは何かを考えるきっかけとなりました